

# 平成24年度 病害虫発生予察情報

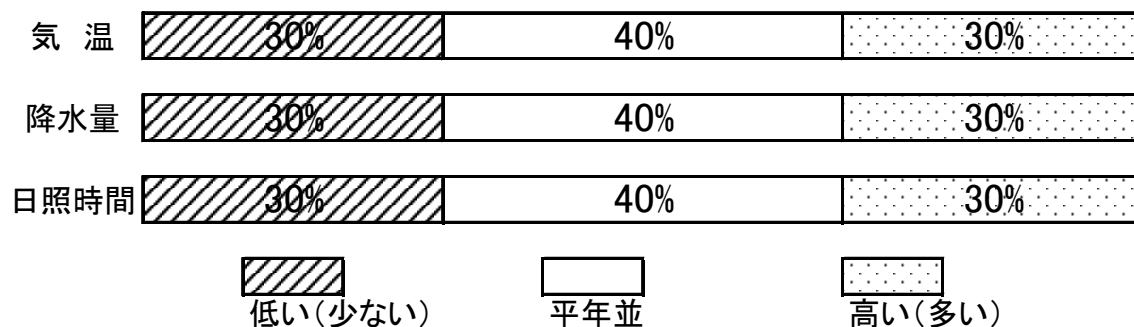
## 発生予報 第1号 (4月)

平成24年 4月 9日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	イネスズムシ	平年並
	ナシ	黒斑病	少ない
		ハダニ類	少ない
野菜	タマネギ	ボトリチス属菌による葉枯れ	少ない
		白色疫病	平年並
		べと病	やや多い
	イチゴ	腐敗病・軟腐病	平年並
		灰色かび病	やや多い
		アブラムシ類	やや多い

中国地方1か月予報(4月7日～5月6日・広島地方気象台4月6日発表)  
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域  
 発生時期 平年並  
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない(過去10年のうち、3月末の発生は平成20年のみ)。
- ②ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

##### (2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域  
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。
- ②ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の新成虫発生量はほぼ平年並みであり（平年比56%）、本年の越冬量は平年並みと考えられる。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯  
発生時期 遅い  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年に比べて少ない。
- ②ナシの生育進度は平年と比べて遅い。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は14.3%（平年37.0%）、平均越冬虫数は0.2頭/バンド（平年5.3頭/バンド）と平年に比べて少ない。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



バンドトラップにおけるハダニ類越冬虫の捕獲数の推移

## C. 野菜

### 1) タマネギ

#### (1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 3月下旬の巡回調査で発生は確認されていない（平年発病株率0.02%）。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率は30.0%（平年33.9%）、発病株率は1.2%（平年1.2%）とほぼ平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生に特に助長する要因とはならない。

#### (3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の越年罹病株の発生量は、発生圃場率は26.7%（平年21.5%）、1万本当たりの発病株数は6.2本（平年3.5本）とやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

#### (4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が23.3%（平年24.4%）、発病株率は0.5%（平年0.5%）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

### 2) イチゴ

#### (1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.7%（平年0.3%）、発病果梗率は0.4%（平年0.2%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

#### (2) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が50.0%（平年17.0%）、寄生株率は3.3%（平年3.4%）とやや多い。

② 4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>  
(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所  
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)  
〒693-0035 出雲市芦渡町2440  
TEL 0853-22-6772  
FAX 0853-24-3342  
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp